

第十六節 昭和十三年

① 職員その他（「任免関係原議綴」その他による。）

昭和十三年

一月十三日 東京帝国大学農学部副手中村濕は図画師範科の園芸に關する科外講義を一月から三月まで臨時囑託される。

二月十六日 フランス語授業囑託新規矩男は講師（無報酬）に任命される。事務囑託（文庫課兼務）は従来どおりとする。

三月三十一日 講師北村耕造は病氣のため依願解囑となり、菊地白は講師（建築材料および施工法授業担任）を囑託される。

四月二日 前年同様岸熊吉、新納忠之介、富田一昭、入江幾治郎、安間立雄は修学旅行の臨時実地指導を囑託される。学術実地指導のため海野清、松垣靄雄、森田武は四月十一日より往復とも十六日間、三重県、奈良県、京都府へ出張を命ぜられ、佐々木卓は四月十一日より往復とも九日間、三重県、奈良県へ出張を命ぜられる。同じく修学旅行のため北浦大介は四月十八日より往復とも九日間、奈良県、京都府へ出張を命ぜられ、瀬谷義広は四月十日より往復とも十七日間、村田良策、鎌倉芳太郎は四月十一日より往復とも十六日間、三重県、奈良県、京都府へ出張を命ぜられる。

同月八日 鹿島則元（昭和十三年図画師範科卒）は図画および手工授業を囑託される。

同月十一日より二十六日まで、校長芝田徹心は生徒修学旅行狀況視察のため三重県、奈良県、京都府へ出張。

同月十四日 教授川合玉堂は依願免本官となる。

同月三十日 体操授業臨時囑託坂下四郎助は依願解囑となる。

同日 教授結城素明は図画師範科主任を免ぜられ、日本画科主任を命ぜられる。同小林万吾は油画科理事を免ぜられ、図画師範科主任を命ぜられる。同南薫造は油画科理事を命ぜられる。

五月六日 小塚新一郎は本校より欧州各国における社会教育情況調査を囑託される。

同月九日 荒木実三郎は体操、教練授業を臨時囑託される。

同月二十三日 片岡美登は臨時版画教室木版部指導を臨時囑託される。

同月二十四日 生徒野営演習につき家所政信、内山讓、荒木実三郎、佐藤重吉は五月二十五日より往復とも四日間、習志野へ出張を命ぜられ、同じく広川松五郎（五月二十六日即日帰京）、森田亀之助、深瀬嘉臣（同二十七日より往復とも二日間）は習志野へ出張を命ぜられる。

同月三十一日 同じく家所政信、内山讓、荒木実三郎（六月一日より往復とも四日間）、武田寿（六月一日、同月三日より往復とも二日間）、田辺孝次、羽野禎三（同月一日より往復とも二日間）は習志野出張を命ぜられる。

五月 藤島武二を陸軍省事務囑託として中支方面へ派遣することが文部省より許可される。

同月 高村豊周、伊原宇三郎、矢沢弦月は學術研究のため朝鮮京城へ出張を命ぜられる。

六月十四日 同じく家所政信、内山讓、荒木実三郎（六月十五日より往復とも四日間）、武田寿（同月十七日より往復とも二日間）、浜野太吉（同月十六日）、高橋吉雄（同月十七日より往復とも二日間）は習志野へ出張を命ぜられる。

同月三十日 大口和夫は本校事務（文庫課）を嘱託される。

七月一日 同じく家所政信、内山讓、荒木実三郎（七月四日より往復とも四日間）、佐藤重吉（同月六日より往復とも二日間）は習志野へ出張を命ぜられる。

同月七日 陸軍歩兵大佐家所政信は本校服務を免ぜられ、陸軍騎兵中佐森知虎が本校服務を命ぜられる。

同月十一日 片岡照三郎は漆工部彫鏤実習授業を一学期間臨時嘱託される。

同月十六日 本年七月十一日より五日間、集団勤労作業実施の際、ラジオ体操実地指導を依頼した川島三郎に謝儀二十円贈与。

同月三十日 豊田朝一郎は体操、教練授業担任講師を嘱託される。

八月一日 荒木実三郎、依願解嘱。

同月十九日 名誉教授正木直彦は東亜文教協会（仮名）発会式参列のため八月二十日より三週間、中華民国へ出張を命ぜられる。

九月七日 晋北自治政府より大同郡市計画を依頼された講師関野克は九月五日より約二カ月間、満州国および中華民国へ出張を命ぜられる。

同月十日 陸軍歩兵少尉内山讓に代わって同石黒宗吉が本校服務を命ぜられる。

同月十七日 森知虎に代わって陸軍歩兵大佐梅尾他家治が本校服務を命ぜられる。

同月二十二日 職員中より藤島武二、小林万吾、建島大夢、田辺至、海野清、関野聖雲、広川松五郎、松田権六、伊原宇三郎、杉田精二、沼田一雅、加藤顕清が第二回文部省美術展覧会審査員を依頼される。

同日 左記の請願書に基づき、本校は江島信一（大正四年金工科卒。宮内省、天賞堂に勤務。前年二度に互り満州、北支の古美術調査実施）に蒙古地方における古美術蒐集に関する事務を臨時嘱託（十五年四月解嘱）する。

請願書

蒙古金工作品標本蒐集の理由

蒙古人は一時世界の大部分を支配した、大民族で今も支那から中央亜細亜にかけて、支那本部の数倍の地域に散在してゐる。殊に今も昔の勇武の性を失はない。これらは早くから西域を占めて三千年來の亜刺比亞、波斯の文化を傳へ、且つ歐亞を通じて雄飛したので世界の文化を吸収してゐる。されば蒙古民族の宗教、軍事に関する各種の文化は意想外に発達し且つ複雑である。特に宗教及軍事に関する金工製作の技術に於て然りである。ダマスカスの刃物、波斯、印度の眞鍮細工、ルリスタン、スキートの銅類にて彫刻をはじめ古代中世の西域地方に於ける彫金、鍍金、鍛金、

即ち打物等の極めて精巧な技術が夙くから蒙古に傳來した事は周知の事実である。現に蒙古刀の精銳と、その彫刻や飾装の見事さとは、世界に有名である。また喇嘛教の佛像、佛具裝飾等の細工も優秀な特徴があり、余は今年一月張家口を経て大同に至り到る處に於て具さにかゝる大小の各種金工の製作に接して稱嘆措く能はなかつたのである。しかも蒙古に関する研究及び資料は極めて乏しく特に金工作品の如き、これに着目する人すらないのである。況ばや、これが実物の如き、日本で見ることを得ない、されば世人にこれを説明しても、たゞ驚くのみで認識も理解も持ち得ないのである。そこで余は、まづ國立美術学校に於て、これが標本として多少とも資料を蒐集し研究に貢献せられんことを建議する次第である。茲に於て余は右の理由に基き聊かなりとも、國家的^{〔觀〕}敷念より、主として北京、張家口、大同、包頭、熱河、その他蒙古の各地に於て帝國の金工發達に資すべきを確信す、偁て金屬工藝研究の爲めに東京美術学校囑託を拜命することを得ば凡てに於て非常なる便宜を得。適當の小品の金工作品類を蒐集せんと欲する若し、その若干を東京美術学校に寄託または寄附する事を得ば幸甚である。行程等に就ては追て申告すべし。 以上

右 江島信一

東京美術學校長芝田徹心殿

十月三日 梅尾他家治に代わつて陸軍歩兵大佐長沢子朗が本校職務を命ぜられる。

同月三十一日 石黒宗吉に代わつて陸軍歩兵少尉宮田外喜雄が本

校職務を命ぜられる。

十一月十日 學校長芝田徹心は帝室博物館顧問に任命される。

同月三十日 囑託鹿島則元は近衛歩兵第三聯隊へ入營のため依頼解囑となる。

十二月十六日 水谷武彦は特別科外講義の謝儀として八十五円贈与される。

② 卒業式

昭和十三年三月二十四日、第四十七回卒業証書授与式が行われ、同日より三日間、校内で卒業制作品陳列会が開かれた。左記はその記録文書の抜粋である。

第四十七回卒業証書授與式次第 (三月二十四日 午前十時)

- 一、新卒業生入場著席 (第一號 講堂北口ヨリ出入)
- 二、職員、參列舊卒業生著席 (第二號 講堂東口ヨリ出入)
- 三、來賓著席 (第三號 講堂東口ヨリ出入)
- 四、校 歌 (一同 起立)
- 五、學校長式辭
- 六、卒業證書授與 (卒業生前後敬禮)
- 七、學校長告辭 (卒業生前後敬禮)
- 八、文部大臣祝辭 (卒業生前後敬禮)
- 九、卒業生總代答辭
- 十、式終了挨拶
- 十一、來賓、職員、舊卒業生、新卒業生順次退場